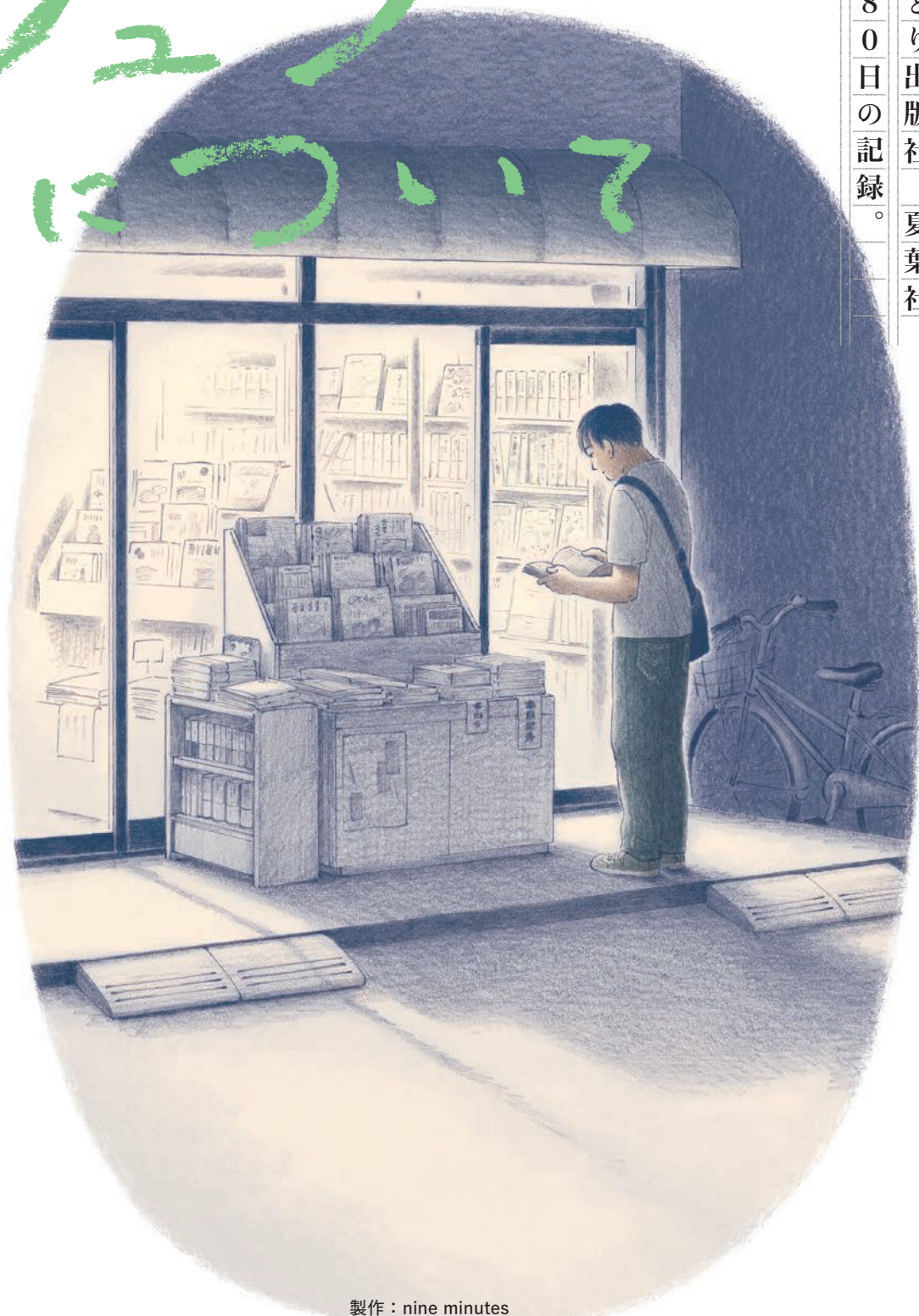


ジュニア

5	8	0	日	の	記	録	。
ひとり出版社、夏葉社。							



どこかで待つ、誰かのために――。

製作：nine minutes

出演：島田潤一郎 プロデュース・撮影・編集・監督：田野隆太郎

朗読：宇野祥平 音楽：mangneng エンディング曲：池間由布子

2024年 / 日本 / ドキュメンタリー / 16:9 / カラー / ステレオ / DCP / 127分

2025年、夏より“焚き火のように”公開

会社で、昼食後に古典を読む。
営業先で、ちいさな本屋を営む店主と交流する。
自宅で、子どもたちと本を囲む。
本とともにある日常で見つけた、
人生のよろこび。

ジュン について

『何度も、読み返される本を。』を掲げ、出版活動をつづける夏葉社。

東京・吉祥寺にある会社では、島田潤一郎が編集や経理、発送作業まで一人でおこなっている。
出版の編集経験もないまま起業し、15年間この仕事を繰り返してきた。

introduction

大学時代、島田は小説コンクールで一等賞を獲り、27歳まで作家を目指すも挫折した。
意を決し就職したものの、そこでも思うようにならず、生きづらい青春期を過ごした。
だが、夏が来るたびに帰省して遊んだ、故郷・高知の従兄の死をきっかけに、人生が動きだす。
悩みのなか読んだ一編の詩にはげまされ、
その詩を自分で出版し、従兄の両親に贈ろうと考えたのだ。
それが『さよならのあとで』という、夏葉社を代表する本となった。



2022年夏、島田は不登校の若者たちを積極的に雇う、
地方の書店の本の編集に取りかかっている。
広島の間部にある店まで足を運び、店主や若者たちと話をし、
その成果を少しずつ原稿にする毎日だ。
本を買い、読むことしかなかった20代。本に救われた島田は、
いま本と本屋と、そこに集うひとたちに恩返ししたいと考えている。

about なつはしや 夏葉社

島田潤一郎が2009年に創業したひとり出版社。
昭和の隠れた名著の復刊や、書店主のエッセイなど、
文芸書を中心に年3冊ほど刊行。初版2500部を刷り、
その書籍は直接つきあいのある全国の150店舗で販売
されている。具体的な誰かを想定した“手紙”のような
本は、読者との信頼関係のもと着実に版を重ねている。

about 『ジュンについて』

“この映画を必要としている人の元まで、末永く届けて
いきたい”と、監督した田野隆太郎が、製作から配
給まで一人でおこなっている。“焚き火のように公開”
とは、大都市からはじめる上映ルートとは距離を
置き、劇場・非劇場問わず、各地にちいさな火を灯
しつづけたという思いから。

出演：島田潤一郎 | プロデュース・撮影・編集・監督：田野隆太郎
朗読：宇野祥平 | 音楽：mangneng | エンディング曲：池間由布子『知られない季節』
MIX：森山貴之 | DCP：長崎隼人 | 題字：菅原潤子 | 機材協力：宇賀神雅裕
宣伝デザイン：横須賀拓 | 宣伝イラスト：長田結花 | 宣伝編集：井上春香 | ウェブサイト：中岡祐介 | ©nine minutes

9minpic.com/aboutjun